

## 地域から日常もろもろ活動を面白く楽しんでいます

<>皆さん、学府や現場でじっくりと活動されておられますが、私の場合は田舎人特有の流儀で活動を楽しんでいます(今では自負しています)。いち田舎人の着想発想行動をここにご紹介できたらと思い、これまでやってきたことを自己紹介も兼ねて述べたく存じます。皆様、面白く読んでいただければ幸いです。なお、モットーは「人集まりて面白し」です。

### 【 1 】 自己紹介 本業と今業 スキップ可です

- A. 本業：地震工学（主に地盤震動）、  
教育論（教育実践も）
- B. 今業：
- a. **道楽**：建築学会、他（道を楽しむために）  
**辻対話**（ウケテス気分で話しに興じます）
- b. 関心事：若者の志、地域の営みの楽しみ、  
専門家と市民、
- c. 発信：各種ブログで発信（意見満載）、  
HP 公開(各活動の見える化、記録の体系化)  
各学協会への寄稿や論文投稿
- d. 集い：
- ・地域では：朝活、ゆったりカフェ、  
富山地震防災研究会(今は知的交流会)
  - ・学協会：学生による語り合いのシンポジオン
- e. NPO 活動：
- ・地域における知識の結い  
(結いとは共同体の意味に加えて、人間と体系を  
対象に縦横斜めのつながりづけの意味も)  
(もともとは**学術の身近化卑近化**をめざす)
  - ・北陸道滑川宿まちなみ保全と活用 後発で参加  
(街の身近化卑近化)
  - ・おおかみこどもの花の家 後発で参加  
(山村居住環境の身近化卑近化)、他

### 【 1 】 学協会にて

#### 1. 学生による語り合いのシンポジオン

2006～現在

大人と学生との間で相互尊重の交流がないことが学生の本来の活力を削いでいると考えて、学生の実地社会教育といったものではなく、いわば学生の志を磨くことができるよう、新たな交流の仕方を工夫し、これを学生主導企画として発案した。特徴は全員がプレゼンターでありディスカッサーであること、討論に加えて談義があること(これを総称して語り合いと呼んだ)、参加者全員が主体者となつての知的交流で幅広い視野で種々の世界を体験し、大所高所からの展望をも楽しみ、そして何よりも人間を磨く(志磨き)ことを、みんなで楽しめることである。これが皆様から評価いただいている「学生による語り合いのシンポジオン」である。これを支部においては主行事として実施しており、この勢いで全国大会にも定番として根付かせた(2007-現在)。

### 【 4 】 地域活動にて

地域生活を面白く楽しみたいというニーズは皆さんお持ちであるものの、そのようなニーズを汲み取る土壌やニーズを繁栄させるシステムが形になっていない。そんな現実を憂いて、ならば少しずつでもいいとしてニーズの実現に着手することにした。

考えたのは、交流の場の設定である。ただの表層的な交流だけではなく、各自背負っている世界をバックグラウンドとした知的交流である。対象は、若者向けの「朝活」、シルバー向けの「ゆったりカフェ」、多様な専門を多様な方々と共に浅掘する「専門家向け知的交流会」(出だしは富山地震防災研究会)の三種である。

#### 1. 朝活

もともとは 2009 年に東京で丸の内大学と称した朝の勉強会が「ライバルに差をつける朝の勉強会」として話題を呼んだ。これが朝活の起源である。

同年、富山ではライバル云々よりも仲間づくり・仲間交流としての朝活が東京とは違って若者の心を

つかんだ。その後、朝活が全国にオルグされるようになった。いまでは朝活といえば「若者が仲間を作りたい、より多く学びたい、自分磨きしたい、というニーズのもと、週一回の通勤前一時間、勤務地域の喫茶店を借り切って行う交流会として、各地で定着している。

朝活かみいちが富山から遅れること5年の2014年、仲間と楽しむ地域に根差す交流会として(後発参入)発足し、歴史を刻んでいる。(上市は富山から東に電車で30分の小さな町)

上市に限らず地方の朝活では、参加者は情報収集や意見交換しに来るのではなく、前述のように人間的な交流を深めにくるのである。人間関係希薄化の時代だからこそ、若者が朝活に居場所を求めているともいえる。こうした思いで支えられているのが朝活(かみいち)である。

## 2. ゆったりカフェ

日常生活の充実をおしゃべりからとして、2013年に地域における「おしゃべりの場」が発足した。これは、各自話題を持ちよっての井戸端談義であり、人とのかかわりが少なくなってきた田舎地域でも、待ち望まれていただけに、今ではしっかりと地域に根づいている。そこでは、しゃべりは心身ともに健康のもとを実践している。

なお、カフェの名称は文字通り気楽な茶飲会の意味であり、哲学カフェや科学カフェなど専門性に特化した討論場ではないことを断っておく。

## 3. 専門家の知的交流会(富山地震防災研究会)

2012年に防災に関心ある方々が勉強会を持ちたいというニーズに応じて、富山にて研究会が発足した。本会の特徴は、

- ・大学中心でなく市民主導といういわば民学官産の形態
- ・発表者は一人2時間。講演ではなく、発表と議論を並列で混在。
- ・富山の地震防災を各分野の多彩な方々で地震防災に関して研究の現状や将来展望を論議。時には提言。富山市副市長への施策持ち込み。

発足から数年は、研究モードで運営されていたが、いつしか他分野から好奇心旺盛な方々が集まるようになる、議論テーマが、地震防災に限定されることなく、美術、哲学、ジャーナリズム、AI、100年健康、アニメ映画、など多岐にわたり、会の様相は大いに論議を楽しむ方向へと様変わりしてきた。と同時に、会の使命が単なる勉強会からステップアップしていることも実感している。今の時代、むしろ多様なかわりが待ち望まれているのではなかろうかと思う次第である。

## 【5】おわりに

私(たち)が進めている取り組みでは、地域に根差してやれる範囲内のことをやって大いに楽しんでいる。また、こうした動きを全国展開したいと思って学協会の全国大会や研究委員会に持ち込んだりもしたが、これらの行為はあくまでも地域からの延長に過ぎない。もっとも、中央での取り組みが地域まで下りてきて、全国がハッピーになることにも敬意を表してエールも送っている。ただ全国展開への思いとしては、大業をめざそうがそうでなかろうが、地域人一人一人がやれることをやるという姿勢で活動を続けていくと、不思議なものでそうした活動が隣地域にしみ出し、さらにまた遠くへしみ出して一つの潮流を作るまでになる、と言いたいのである。それにもう一つ。何か行動すると世直しですとよく言われるが、我々が生活充実を求めれば、世の中がついてくるといっても過言にあらざと思っている。

最後に一言。この世の中、種々の取り組みでは、「コストパフォーマンスは、メリットは、役に立つか、もうかるか、など」といって社会の波に乗る思考とルールを求める方が多い。これに対し我々の取り組みでは、そうした意識の方はほとんどおられない。これは、(時代の)波乗りでは自分の存在を有効化できないということであり、「こだわりや面白さ」を追求したいということの現れであろう。

末筆になりましたが、私の活動は私だけではなく皆さんと共同でやっており、皆様に感謝いたします。